

令和7年度 学校評価(後期)

報告書



令和7年12月

伊予市立双海中学校

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R7.7月 肯定率		
		○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者						4	3	2	1	肯定率		全体肯定率	
1 教育課程・ 学習指導	・「分かる・できたを実感する授業」「考える授業」「伸びる授業」の実現のためのICTを活用した個別最適な学習の充実等による授業改善 ・問題解決的な学習の実践や学び合いによる言語活動の充実 ・特別支援教育の視点による一人ひとりの生徒への全校的な支援	①	○授業では、発表、実験、制作等自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や体験活動の時間がよくある。 ◎双海中は、授業で自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や様々な体験活動をよく実施している。 □本校は、「表現力」「読解力」の育成のため、各教科や総合的な学習等において、適切な言語活動や体験的活動を実施している。	A	【考察】 表現力や思考力の向上を目指して、ICTを効果的に活用した授業改善に取り組んでいる成果により、生徒・保護者・教職員ともに高い肯定率を保つことができています。全国学力・学習状況調査にもその成果はあらわれている。いる「どちらかと言えば思わない」と回答した生徒も2%いるため、さらに工夫した取組が求められる。 【改善方策】 「問答ゲーム」による指導と授業での実践が伴ってきているため、今後もより質の高い実践を展開していくことが重要である。各教科等の授業において、生徒にとって魅力的な学習課題を設定し、学び合い学習の充実を図るとともに、ICTをさらに効果的に活用するなど個に応じた学習指導に重点を置く必要がある。また、朝の自主活動での学びを各教科等でさらに深化させていくことも重要である。	生徒アンケート ◎	◎	61	37	2	0	98	99	93	
														100	
															100
			②	○私は、話をしっかり聞いたり、ノートをとったりして、授業にまじめに取り組んでいる。 ◎お子さんは、真面目な学習態度で、授業に取り組んでいる。 □本校は、学習四原則の徹底を図り、基本的な学習習慣の育成に努めており、身に付いている。	A	【考察】 生徒・保護者ともに高い肯定率である。生徒は、「話をしっかり聞く」「きちんとノートをとる」等の基本的な学習習慣を意識しながら授業に臨んでいる。今後は思考を伴わせながら「聞くこと」や「書くこと」に取り組んでいけるよう、より質の高い学習指導や生活指導に取り組んでいくことが肝要である。 【改善方策】 今後も生活習慣や学習習慣の確立することが重要であることを教職員が共通理解したうえで、生徒への丁寧な指導を積み重ねていく。知識や技能を習得させること、及び、思考力・判断力・表現力等の育成における、「聞くこと」や「書くこと」の大切さに留意して学習場面を設定するとともに、生徒が「主体的」「対話的」に授業に取り組むことのできる問題解決的な学習の充実をさらに進める。	生徒アンケート ◎	◎	61	39	0	0	100	98	98
															93
	③	○日々の学習内容をある程度理解し、意欲をもって学習している。 ◎お子さんは、授業の内容がある程度理解できていて、意欲を持って学習している。 □自分は、生徒が意欲的に授業に取り組むように工夫し、「分かる・できた授業」、「考える授業」、「伸びる授業」になるよう、授業改善に取り組んでいる。	B	【考察】 生徒の肯定率は、7月の調査時から若干向上している一方で、保護者の肯定率は著しく下がっている。学習内容の理解に課題を感じている生徒も4%いるため、より一層の個別最適な学習を具現化する指導の工夫及び効果的な振り返りの時間の設定が求められる。 【改善方策】 一人ひとりの生徒が意欲をもって学習に臨み、「分かる・できた」を実感できる授業の実践を最重要課題として取り組んでいく。ICTも効果的に活用しながら、特に個に応じた学習指導の充実を努める。「個別最適な学習」が充実するよう、振り返りの時間も有効に活用して、日々の授業における見取りとともに、定期テストや小テストの分析を丁寧に行い授業改善につなげる。	生徒アンケート ◎	◎	45	50	2	2	95	88	93		
														86	
														100	
	④	○私は、宿題や自主学習ノートにしっかり取り組み、家庭学習の習慣が身に付いている。 ◎お子さんは、宿題や自主学習ノート等、家庭学習の習慣が身に付いている。 □本校では、家庭学習習慣の指導に全校体制で取り組み、その定着を図っている。	B	【考察】 7月の調査と比較して、生徒の肯定率は向上している一方で、自主学習への取組が不十分であることを自覚し、課題としている生徒も存在する。また、クラスで提出物が期限に出されないことを課題と捉えている生徒も少なからず存在している。保護者の肯定率は7月から低下しており、特に宿題以外に自主的・自律的に学びを進められていないことに課題を感じている保護者が多く存在している。 【改善方策】 生徒が自主的・自律的に学びを進められるよう、各教科等における家庭学習の課題の出し方をさらに工夫していく。また、自律的・計画的に学びを進めていくことの意義や自主学習の進め方について、各教科で丁寧に指導していく。「学びに向かう力」の育成に力点を置いた学習指導方法の在り方の工夫・充実を努める。	生徒アンケート ◎	◎	33	54	12	2	86	82	77		
														72	
														100	
	⑤	○先生は、日々の授業や質問タイムにおいて、分かりやすく教えてくれている。 ◎双海中は、日々の授業や学習相談等で分かりやすく教えてくれる。 □本校は、学習相談等やICTの活用により、個に応じたきめ細かな指導が行われている。	A	【考察】 生徒・保護者の肯定率が7月と比べて低下していることを重く捉えなければならない。生徒一人ひとりの学習の様子に目が届きやすいという本校の利点を生かして、授業中や課題の取組状況等から生徒一人ひとりの課題を確実に把握できる取組が求められる。 【改善方策】 教師は、授業における発問や説明、指示において、「分かりやすさ」に留意した言葉遣いや話の構成を行う。授業等において生徒が質問できる場の保証にも努めるとともに、一人ひとりの生徒の教師に質問・相談することへのハードルがさらに低くなるよう意図した生徒との人間関係作りや授業の雰囲気づくりをさらに進めていく。また、振り返りの状況を的確に捉え、生徒のつまずき等の早期発見に努める。	生徒アンケート ◎	◎	59	34	7	0	93	93	98		
														100	
														100	
	⑥	○私は、地域の行事に積極的に参加している。 ◎双海中は、地域の自然や伝統行事等を重視しており、お子さんは地域行事に積極的に参加しようとしている。 □本校は、地域の人材や自然、伝統行事などの教育資源を活用し、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。 ◇双海中は、地域の人材や自然、文化財、伝統行事等の教育資源を活用し、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。	A	【考察】 多くの生徒が公民館祭り等のイベントに様々な形で参加し、生き生きと活動するできている。吹奏楽部の地域での演奏機会も多く、また、園芸ボランティア部と地域とのかかわりも一層大きくなっている。「双海中の地域での存在がより大きいものとなっている」との声を地域から頂くなど、充実した取組が展開できている。人権・同和教育の実践や地域のバリアフリー調べなど、地域のよさを学びとする取組も充実させている。 【改善方策】 地域行事が、生徒にとっては学校とは違う個性を発揮する場となっており、存在感を得ることにつながっている。生徒のキャリア形成にとって価値ある学びの場ともなっている。生徒の地域での学びを学校教育に有機的に関連付けていくとともに、今後もPTAやコミスクメンバー、公民館との連携をさらに強化し、地域の力も大いに借りながら、地域資源の教材化にも努め、より質の高い教育実践を展開していく。	生徒アンケート ◎	◎	54	37	2	7	91	93	90		
														97	
														100	
														96	
学校関係者 評価委員の 所見	家庭でも計画的に学習を進めていく意欲が醸成されるよう、学校の働き掛けを工夫することが必要である。学習の進め方を具体的に教えたり、自主学習の意義を学ばせたりすることが大切である。家庭学習の充実が学習内容の理解はもとより、学習意欲にもつながっていくため、計画的に学習を進められる生徒の育成に努めて欲しい。そのためにも、小学校とも連携した取組が必要である。また、質問ができるためには自分の苦手な部分や勉強の仕方が分かればならない。					学校の対応	各教科の記述問題における正答率に課題が見られるため、読解力や表現力の育成には今後も充実を図る。また、個に応じた学習を充実させるため、家庭との連携を図り、自己調整学習の習慣の定着に向けた取組を実施するとともに、振り返りの時間を重視し、自己の学習状況をメタ認知できる力の育成に力を入れる。								

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R7.7月 肯定率	
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率		
2 心の教育	・思いやりと感謝の気持ちを基盤とした支持的風土の醸成	⑦	A	【考察】 7月からさらに高い肯定率となっている。運動会や双海中フェスタに向けての取組では、協力・協働することの意義を多くの生徒が実感しながら、大きな成果を得られたことが要因として挙げられる。また、各教育活動において、温かい人間関係を基盤にした学習活動を積み重ねることができた。 【改善方策】 学校行事以外でも、本校では協働的に学んだり、協力して物事を成し遂げたりする場面を意図的に設定している。場の設定だけではなく、思いやりや感謝、相互理解や寛容の心が着実に養われるように、各教育活動を有機的に関連付けながら、さらに質的向上を図っていく。	生徒アンケート ◎	◎	64	36	0	0	100	100	98	
													97	
														100
	・「議論して考えを深める」特別の教科道徳と人権・同和教育の充実	⑧	A	【考察】 7月に引き続き、大変高い肯定率となっている。人権・同和教育の視点を核にした道徳科や学級活動の授業改善も、全校体制で進めていくことができた。また、掲示物や学級通信、朝の会・帰りの会の道徳性を高める取組等の成果がでているものと思われる。学級担任以外が行う道徳科の授業にも取り組むことができた。 【改善方策】 引き続き、「考え議論する」道徳科の授業の工夫・充実を図るとともに、3学期は、担任以外の教員が行うローテーション道徳などの取組をさらに充実させていく。加えて、学校行事や学級活動、総合的な学習の時間が、道徳実践の場としてさらに効果的なものとなるよう、道徳科の授業を要に、各教育活動の充実が図られるよう、指導の工夫を積み重ねていく。	生徒アンケート ◎	◎	61	39	0	0	100	100	96	
													100	
														100
														100
	⑨	A	【考察】 自尊感情を育むという視点を持って、生徒自身に達成感や自己肯定感を味わわせられるように、各教科等の授業場面での工夫・改善を進めた。また、2学期中の各行事も生徒の自尊感情を高められるよう、場面指導等に留意した。その成果もあらわれ、生徒・保護者の肯定率が上昇しているが、自尊感情が低い生徒は固定化されやすいという実践研究の成果もあるため、引き続き充実した取組が必要である。 【改善方策】 今後は大きな学校行事もないため、各教科等の授業場面における達成感や自己肯定感が醸成される工夫がより一層必要となる。自尊感情は、自分自身の達成感及び周囲からの賞賛や肯定的な言葉掛けの両方が必要であると考えられるため、日々の活動の充実と豊かな人間関係の構築の両面の取組を今後も充実させなければならない。	生徒アンケート ◎	◎	40	45	11	5	84	93	79		
													96	
													100	
⑩	A	【考察】 地区別人権・同和教育研究会が本校を会場の一つにして開催されたことも契機とし、質の高い教育実践を積み重ねることができた。保護者、教職員の肯定率が100%であるが、生徒の2%が「どちらかといえば思わない」と回答していることも踏まえ、普段からの声掛けや生徒支援においても一人ひとりの生徒に心を配った教育実践を行う必要がある。 【改善方策】 引き続き、質の高い人権・同和教育の積み重ねを通して、周囲を啓発し、差別解消へ向けた取組ができる資質を身に付けさせていく。学んだことと生活場面での言動がつながるように、実践への意欲や態度につながる教育活動の充実に向けて引き続き取り組んでいく。	生徒アンケート ◎	◎	68	30	2	0	98	99	95			
												100		
													100	

学校関係者
評価委員の
所見

学校という場所は、学力や運動能力で比較されてしまうところがあり、苦手分野が多い子どもの自己肯定感が低下しやすい側面がある。学校内外において、一人ひとりの個性が生かされる場の充実が必要である。また、自分の長所をしっかりと伝える子どもを育てていくことが大切である。道徳科の授業をはじめとする学校の道徳教育において、自分のことを見つめる時間を大切にしたい。そのことが自分も他者も大切にできることにつながっていくと考える。

学校の対応

今年度の充実した人権・同和教育で育成された人権感覚や身に付けた知的理解を、生活場面で生かされるよう取組を進める。道徳科においても振り返りの場面の質を高め、自己を見つめる時間を重視した授業改善を進める。また、学校内外での生徒の努力の過程をしっかりと見取り、個性が伸長されるようアプローチを工夫していく。

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒43名、保護者23名、地域有識者27名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評価基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R7.7月 肯定率		
							4	3	2	1	肯定率		全体肯定率	
3 生徒指導	・いじめ・不登校・非行・事件・事故等の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決のための家庭・地域・関係機関と連携・協働体制の強化 ・生徒理解・教育相談の充実と自己存在感や充実感を感じられる教育の推進 ・生徒の自主的活動を通じた自主性や自律性、規範意識等の社会性の育成	⑪	○私のまわりでは、仲間はずしやいじめにつながるような言動は見られない。 ◎お子さんのまわりでは、いじめや仲間はずしは見られない。 □本校の生徒は、仲間はずしやいじめのような言動や差別的な態度をとったりしてはいない。	B	【考察】 生徒、保護者の肯定率が、7月に比べて低くなっている。特に保護者の肯定率の低下は、危機意識をもって現状をとらえなければならない状況と言える。潜在的な人間関係のトラブルは常に存在しているとの意識で生徒の人間関係を見つめていかなければならない。 【改善方策】 引き続き生徒に関する情報交換を日ごろから密にし、全教職員で共通理解のもとで組織的に指導に当たることを常とする。生徒の普段のよりよい行動につながる人権学習をさらに充実させ、日常生活における自分の言動を振り返り、改善することができるような感性や行動力を身に付けさせていく。また、人権侵害に当たる言動については、見過ごさず、毅然とした態度で丁寧な指導を行っていく。	生徒アンケート ◎	61	30	5	5	91	85	93	
		⑫	○先生は、私たちによく声をかけてくれたり、いじめなどが起こらないように努力してくれたりしている。 ◎双海中は、いじめ・不登校等の早期発見や早期対応に努力している。 □本校は、日々の生徒の様子に気を配り、小さな変化や言動にも配慮し、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に努めている。	A	【考察】 7月と比較して、生徒、保護者ともに肯定率が低くなっている。教師は指導・対応しているつもりでも、生徒には届いていないことも考えられる。また、教師に関わってほしいことがあっても、直接言いにくい生徒も存在していると考えられるため、様々な面から生徒を捉え、具体的にアプローチしていく必要がある。 【改善方策】 今後も、生徒の日々の言動や表情の変化に気付くことができるよう、教職員が積極的に関わっていく姿勢を維持しなければならない。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家とも連携を密にし、一人ひとりの生徒への目配り、気配り、心配りを怠らぬで行っていく。不登校生徒については、上記の外部人材のほかにフリースクールや子ども家庭センター等の専門機関とも連携しながら個に寄り添った支援をしていく。家庭への連絡をさらに密に保護者の思いもしっかりと受け止めていきたい。	生徒アンケート ◎	51	37	7	5	88		90	97
		⑬	○双海中の生徒会行事や委員会活動は活発に行われ、私も自分の責任を果たそうとしている。 ◎双海中は、生徒会行事や委員会活動の活性化によるリーダーの育成や、仲間づくりに努めている。 □本校は、生徒会行事や委員会活動の活性化によるリーダーの育成や仲間づくりに努め、成果を上げている。	A	【考察】 肯定率は三者とも前回同様高く、生徒会行事や日々の委員会活動により、生徒自身が自治的な活動を行うことができている状況であるといえる。しかし、生徒、保護者ともに肯定できない状況があることもしっかりと受け止め、生徒一人ひとりが生徒会の一員であることへの自覚を深める必要がある。 【改善方策】 各行事等において、生徒会役員を中心に全校生徒一人ひとりが積極的な活動を行うことができた。今後も戦略的に生徒会行事や委員会活動を充実させるとともに、生徒の自主的かつ自発的な活動を促すという視点とリーダーの育成にも力点を置き、諸活動の実践を積み重ねていく。少年の日を契機に2年生の自治意識を高めることにも留意し、各教育活動を展開していきたい。	生徒アンケート ◎	65	28	5	2	93			96
		⑭	○私は、大きな声でのあいさつ・中学生らしい服装・場に応じた言葉遣いなどの基本的生活習慣が、きちんと身に付いている。 ◎お子さんは、家庭や地域で、あいさつ・服装・言葉遣い等の基本的生活習慣がよく身に付いている。 □本校は、挨拶・服装・言葉遣い等の基本的生活習慣の確立と規律ある生活態度の育成に十分取り組んでいる。 ◇双海中生は、地域で明るいあいさつや適切な言葉遣い、きちんとした服装ができています。	A	【考察】 非常に高い肯定率となっている。生徒は、身だしなみに気を付けて、中学生らしい言動で生活することができているとともに、地域でのあいさつが大変よくできている状況であり、それを誇りに思う生徒も多い。ただ、忘れ物が多くあったり、提出物を期限に出せなかったりする状況があまり改善されていないため、全校的な取組が必要である。 【改善方策】 中学生として望ましい生活習慣の確立のために、家庭の協力を求めていく。あいさつがよくできていることについては、本校の良さとして改めて認識させ、あらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができるよう、声掛けを継続していきたい。また、生徒会役員が企画したあいさつプロジェクトの成果も生かしながら、さらに生徒の良さを伸ばしていくことが大切である。忘れ物が多い生徒や提出物が期限に出せない状況については、家庭にも協力を仰ぎながら、改善に向け、効果的な方略を生徒とともに考えていきたい。	生徒アンケート ◎	54	47	0	0	100	97		
		⑮	○日記(あゆみ)や先生方との対話、教育相談等で、先生と交流が図られている。 ◎お子さんは、日記(あゆみ)や教育相談等を通して、先生方とのコミュニケーションが図られている。 □本校は、機会を捉えて声掛けや教育相談を行い、日常の教育相談的対応を通して生徒との交流を深めようとしている。	B	【考察】 7月と比較して、生徒、保護者の肯定率が低くなっている。とくに保護者の肯定率の低下が著しい。各学級担任日記指導や小まめな声掛けにより、生徒とのコミュニケーションをとり、なお一層、生徒理解に努めなければならない。あゆみで教員とやり取りすることを楽しみとしている生徒もいる。一方で、あゆみの積極的かつ効果的な活用を求める保護者の声もあり、検討していかなければならない。 【改善方策】 生徒と教職員との対話については、教職員の業務改善をさらに進め、教師がゆとりをもってじっくりと生徒と関わる時間を創出できるよう引き続き、取り組んでいく。あゆみは生徒にとって学校での安心を生み出す機能もあるため、効果的に機能するよう取組を継続する。また、教育相談の機会をさらに拡充していくなど、本校において相談機能の充実が図られるよう留意する。	生徒アンケート ◎	36	48	12	5	83		84	
⑯	○私は、大きな声でのあいさつ・中学生らしい服装・場に応じた言葉遣いなどの基本的生活習慣が、きちんと身に付いている。 ◎お子さんは、家庭や地域で、あいさつ・服装・言葉遣い等の基本的生活習慣がよく身に付いている。 □本校は、挨拶・服装・言葉遣い等の基本的生活習慣の確立と規律ある生活態度の育成に十分取り組んでいる。 ◇双海中生は、地域で明るいあいさつや適切な言葉遣い、きちんとした服装ができています。	A	【考察】 非常に高い肯定率となっている。生徒は、身だしなみに気を付けて、中学生らしい言動で生活することができているとともに、地域でのあいさつが大変よくできている状況であり、それを誇りに思う生徒も多い。ただ、忘れ物が多くあったり、提出物を期限に出せなかったりする状況があまり改善されていないため、全校的な取組が必要である。 【改善方策】 中学生として望ましい生活習慣の確立のために、家庭の協力を求めていく。あいさつがよくできていることについては、本校の良さとして改めて認識させ、あらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができるよう、声掛けを継続していきたい。また、生徒会役員が企画したあいさつプロジェクトの成果も生かしながら、さらに生徒の良さを伸ばしていくことが大切である。忘れ物が多い生徒や提出物が期限に出せない状況については、家庭にも協力を仰ぎながら、改善に向け、効果的な方略を生徒とともに考えていきたい。	保護者アンケート ○	35	35	20	10	70	96	96			
⑰	○私は、大きな声でのあいさつ・中学生らしい服装・場に応じた言葉遣いなどの基本的生活習慣が、きちんと身に付いている。 ◎お子さんは、家庭や地域で、あいさつ・服装・言葉遣い等の基本的生活習慣がよく身に付いている。 □本校は、挨拶・服装・言葉遣い等の基本的生活習慣の確立と規律ある生活態度の育成に十分取り組んでいる。 ◇双海中生は、地域で明るいあいさつや適切な言葉遣い、きちんとした服装ができています。	A	【考察】 非常に高い肯定率となっている。生徒は、身だしなみに気を付けて、中学生らしい言動で生活することができているとともに、地域でのあいさつが大変よくできている状況であり、それを誇りに思う生徒も多い。ただ、忘れ物が多くあったり、提出物を期限に出せなかったりする状況があまり改善されていないため、全校的な取組が必要である。 【改善方策】 中学生として望ましい生活習慣の確立のために、家庭の協力を求めていく。あいさつがよくできていることについては、本校の良さとして改めて認識させ、あらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができるよう、声掛けを継続していきたい。また、生徒会役員が企画したあいさつプロジェクトの成果も生かしながら、さらに生徒の良さを伸ばしていくことが大切である。忘れ物が多い生徒や提出物が期限に出せない状況については、家庭にも協力を仰ぎながら、改善に向け、効果的な方略を生徒とともに考えていきたい。	教職員アンケート ◎	60	40	0	0	100		100	100		

学校関係者
評価委員の
所見

学習相談や生活相談が日々の日記指導の中で行われるとよい。また、先生に相談しやすい雰囲気づくりをより一層進めて欲しい。生徒は、人権・同和教育での学びをいじめや仲間外しなどの身近な問題とは、別物のように捉えている状況もあるのではないだろうか。その見取りをしっかりとした上で、道徳科における教材や授業の仕方をさらに工夫していく必要がある。また、スクールカウンセラー等に相談に行くことにも大きな勇気が必要とする生徒もいると思われるため、できるだけ気軽に相談に行けるように工夫してほしい。

学校の対応

2学期に実施した全教職員で当たった教育相談で得た情報も生かしながら、生徒とのコミュニケーションを丁寧にとり、生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導をしていく。いじめや不登校の原因は、学習面や人間関係など事例によって様々であるため、個人の思いを十分に把握し、家庭とも連携しながら、早期対応を心掛けていく。

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒43名、保護者23名、地域有識者27名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R7.7月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
4 健康 安全 教育	・心身を鍛え、健全育成と自己実現に資する部活動の推進 ・命を守るための学校安全に関する危機管理体制の強化及び安全指導の徹底 ・健康安全に関する指導の充実と衛生的で安全な給食指導の徹底 ・潜在危険個所の把握や防災・減災対策の確立	⑮ ○双海中の部活動は意欲的に行われており、私がかんばって取り組んでいる。 ◎双海中は、部活動に意欲的に取り組み、その活動は充実している。 □本校の部活動は適切に運営され、生徒は意欲的に活動している。 ◇双海中生は、部活動に意欲的に取り組み、その活動は充実している。	A	【考察】 7月と比較して、保護者の肯定率は若干下がったものの、4者ともに高い肯定率と言える。教員以外は「(どちらかと言えば)思わない」と回答している状況もあることも踏まえ、生徒一人ひとりにとって充実した部活動となり、また、温かい人間関係や所属意識が育まれるように留意する必要がある。 【改善方策】 文化部を中心に、地域に向けた取組は充実しているものの、部活動の目的が人間力の向上であることを念頭に置き、どの部活動も生徒が充実感を持てるよう、部活動経営を推進する。本市では部活動の地域以降に向け、積極的に準備が進められているため、行政や伊予市内の他校とも連携を密にし、部活動の新たな形にも生徒が戸惑うことなく、意欲的に取り組めるようサポートしてしていきたい。また、新入生にも、その旨、丁寧に説明をしていきたい。	生徒アンケート	◎	55	41	2	2	95	94	93
					保護者アンケート	◎	18	73	9	0	91		93
					教職員アンケート	◎	10	90	0	0	100		100
					地域有識者アンケート	◎	58	33	4	4	92		100
					生徒アンケート	◎	66	34	0	0	100	100	98
					保護者アンケート	◎	33	67	0	0	100		100
					教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100
					生徒アンケート	◎	73	27	0	0	100	99	95
					保護者アンケート	◎	26	70	4	0	96		90
					教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100		100
					生徒アンケート	◎	77	23	0	0	100	100	100
					保護者アンケート	◎	32	68	0	0	100		93
					教職員アンケート	◎	20	80	0	0	100		100
					地域有識者アンケート	◎	80	20	0	0	100		100

学校関係者
評価委員の
所見

地域、関係団体の協力もあり、生徒の交通ルールやマナーへの意識は高いと思われる。健康面については、今年度は、インフルエンザが広がってしまった状況もあるので、生徒だけではなく保護者にも市内のインフルエンザ等の状況をお知らせするなど、積極的に広く注意喚起をすることが必要である。
部活動は、少ない人数だがどの部も頑張っていると思う。地域の活動などにも積極的に協力をする中で、幅広い力が育っているように思う。部活動の地域以降が進んでも、部活動での取組が、今後も双海町の中で生かされるとよい。

学校の対応

安全に生徒が登下校できるよう、道路の状況や個人の登下校の様子に応じて、声掛けをしていく。また、教員が通学路の状況や登下校の様子を定期的に確認をする。部活動の地域移行に向けて、市の動向を注視して、情報収集に努めていく。特に、新入生の部活動選択が適切に行われるよう留意する。

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒43名、保護者23名、地域有識者27名、教職員10名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R7.7月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
5 保護者・地域との連携	⑳ ・目標やビジョンを共有・共創する学校運営協議会の構築	◎双海中は、ホームページや各種通信・配布文書、家庭訪問・懇談会・電話等により、学校の様子を伝えている。 □本校は、各種通信や配布文書、家庭訪問・懇談会・電話連絡等による積極的な情報提供を行っている。 ◇双海中は、ホームページや各種通信・配布文書により、学校の様子を知らせる情報提供に努めている。	A	【考察】 非常に高い肯定率である。学級通信や学校便り、保健便り等に確実に目を通していただいていること、地域の方を含め、ホームページも多くの方に閲覧していただいていることに深く感謝している。一方で参観日の来校者が減少していることを指摘する声もあるため、工夫改善が必要である。 【改善方策】 各種の便りやホームページについては、生徒の活躍の姿や学校の様子を掲載するほか、生徒の考えや思い、学校の教育方針を分かりやすく届けられるようさらに工夫していきたい。また、双方向性のある便りについても要望があるため、検討していきたい。各行事や参観日等の生徒の様子を見ていただける機会には、コミスクメンバーに案内状を配付するとともに、ホームページでも広報するなど、広く地域の方に様子を見ていただけるよう引き続き工夫していきたい。	保護者アンケート ◎ 61 39 0 0 100 教職員アンケート ◎ 80 20 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 65 35 0 0 100	◎	100	100	100	100	100	100	
		◎あなたは、PTA活動に協力的にかかわり、学校や地域との積極的な交流に努めている。 □本校では、活発なPTA活動が展開され、保護者や地域、関係機関との積極的な連携に努めている。 ◇双海中は、活発なPTA活動が展開され、保護者や地域、関係機関との連携が行われている。	A	【考察】 部活動の大会での声援や送迎を含め、保護者・地域の皆さんには多大なご協力いただいている。諸行事等においても、コミスクメンバーや関係機関から随分と協力をいただいております、質の高い教育活動を展開することができている。一方で、保護者、地域の肯定率は低下しており、「(どちらかといえば)思わない」との回答も見られるため、気軽に学校に足を運べる機会や学校運営に参画できる機会について、工夫していく必要がある。 【改善方策】 前期から引き続き、コミスクメンバーの方にも様々なご協力いただきながら、大変活発なPTA活動が展開されている。PTA専門部の役員の方も、より良い活動にするため創意工夫していただき充実した活動が展開されている。さらに多くの保護者に関わっていただけるよう、機会の拡充や広報活動等に力を入れたい。今後も、コミスクメンバーの力を借りながら保護者・地域・関係機関ともより一層連携を深めていきたい。	保護者アンケート ◎ 14 73 9 5 86 教職員アンケート ◎ 90 10 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 64 27 5 5 91	◎	92	91	100	100			
	⑳ ・積極的な情報発信や情報交換による家庭・地域・関係機関との信頼関係の確立と連携・協働体制の強化	□本校は、学校開放等を適切に実施し、開かれた学校づくりが行われている。 ◇双海中は、学校開放等を適切に実施し、開かれた学校づくりが行われている。	A	【考察】 非常に高い肯定率と言える。地域の方々やコミスクメンバーの皆さんには多くの協力をいただきながら開かれた学校づくりを推進することができており、地域の実態に応じた質の高い教育活動が展開できていることに感謝したい。参観日の来校者が減少しているという実態や普段の授業を見る機会の増加を望む声があることを踏まえ、さらに開かれた学校となるよう工夫していきたい。 【改善方策】 今後も、参観日や学校行事等の実施について案内し、地域の方にも生徒の様子を見ていただけるよう広報活動等を工夫する。また、コミスクメンバーが学校運営に参画する機会をさらに多くしていき、学校と協働して質の高い教育活動を生徒に展開できるよう図っていき、今後本格始動していく歴代PTA会長会での取組も軌道に乗せていき、様々な立場から学校運営や各教科の授業に参加・参画できる場を設定していく。	教職員アンケート ◎ 60 40 0 0 100 地域有識者アンケート ◎ 50 50 0 0 100	◎	100	100	100	100	100		
学校関係者 評価委員の 所見	学校やPTA活動への関わり方について、小学校と比較して、関わり方が難しいように感じている保護者もいる。関われる場面を可能な限り増やしていくとともに、学校に関わろうとするハードルがさらに低くなるよう知恵を絞っていくことが大切である。授業において、地域や保護者の人と子どもたちが一緒に学ぶことができる活動を増やすのも一つの手ではないかと考える。PTA活動については、地区役員さんが減少している状況があるため、役員ではない方もさまざまな形で関われるよう、活動の在り方を工夫していくことが必要である。			学校の対応	保護者の皆様の積極的な協力のおかげで、学校と地域のよい協力関係が築けており、今後もこれを継続していく。コミュニティスクールの取組についてもさらに充実が図られるよう取り組んでいく。自由参観日の在り方を工夫するとともに地域や保護者とビジョンをより一層明確にしながら「協働」し、質の高い教育活動を展開する。								

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒43名、保護者23名、地域有識者27名、教職員10名 ※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R7.7月 肯定率	
							4	3	2	1	肯定率		全体肯定率
6 研修・ 管理運営	・規律保持・服務規律の徹底と心身の健康管理への配慮 ・教職員のキャリアステージに応じた校務分掌と研修の充実による資質・能力と働きがいの向上	⑳ □本校では、適切な研修が実施され、教職員の資質・能力の向上や自己研修に役立っている。	A	【考察】 中予地区人権・同和教育研究協議会の会場校となっていることもあり、人権に関わる問題やその指導に関する教員研修を積み重ねることができ、その成果も質の高い授業実践や人権劇の指導に生かすことができた。各教科等及び各校務に関する研修も各々が積極的に積み重ね、全教員が職能成長を図ることができた。前期同様、教職員の資質・能力の向上に有益な情報を適宜共有し合い、全教職員が伸び合う雰囲気醸成されている。 【改善方策】 人権・同和教育については引き続き全教職員での研修を重ね、さらに取組を充実させていく。校長の指導のもと、各教職員が自らのキャリア形成に必要な研修を深めていくことができるよう、学校外で行われる研修にも参加しやすい環境も整備されているため、その機会を積極的に生かし資質・能力の向上を図り、教育活動に還元していきたい。	教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100	100	100
		㉑ □本校は、連絡・報告・相談を的確に行い、服務規律を遵守し、協働体制の確立に努めている。	A	【考察】 本校では、職員会のみならず、情報共有は日常的に活発に行われており、よりよく学校運営が成される体制が機能している。服務規律の遵守も、機会を適切にとらえた校長の指導のもと、全教員が高い意識を保ち、確実に守られている。 【改善方策】 教職員同士の豊かな人間関係のもと、校長の示す学校経営のビジョンに全教職員がベクトルを合わせて諸活動に協働して取り組むことができている。また、連絡・報告・相談も密に行われており、それらが生徒の快適な学校生活や教育活動の質の高さ、保護者・地域の信頼につながっている。これらに一層留意し、普段から一人ひとりの生徒に寄り添った丁寧な教育活動を推進する。	教職員アンケート	◎	90	10	0	0	100	100	100
	・働き方改革の推進による業務改善と温かみのある職場環境づくり ・施設や備品及び薬品の等の点検・整備とその効果的な活用	㉒ □本校の職員室の雰囲気は温かく活力のある職場環境となっている。	A	【考察】 生徒の情報交換を中心に、教職員間で多くの会話がなされ、明るく活気のある職場となっている。また、若手教員が生き生きとした表情で教育活動に当たってくれていることも、職場の雰囲気を一層明るいものにしてきている。それぞれが互いの業務にも気を配りながら、協力し合うこともできている。 【改善方策】 本校は小規模の学校であり、一人が受け持つ校務の量が規模校に比べると多いが、校長の指導のもと、全教職員が個性を発揮しながら積極的に学校運営に参画することができている。今後も全教職員が自身のキャリアステージに応じた働きがいをもつことができるよう留意していきたい。	教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100	100	100
		㉓ □本校では、適切な物的管理と事務管理が行われている。	A	【考察】 会計に関しては、ダブルチェックまたはトリプルチェックする体制となっており、適切に処理されている。施設や設備の安全管理についても定期的及び必要に応じた点検が実施され、校内の危険箇所が放置されるようなことはなかった。備品も適切に管理されている。学校環境の保全のため、PTA奉仕作業にも多くの方が参加していただき感謝している。 【改善方策】 会計管理については、校長の指導のもと、より一層厳正に管理されている。施設・設備の管理、事務管理についても引き続き適切に行っていく。また、潜在的な危険箇所にも思考が及ぶように教職員間で意識を働き合わせていく。本校の人間関係の良さに流されることなく、管理面については引き続き厳格に行っていく。	教職員アンケート	◎	80	20	0	0	100	100	100
	・会計事務の正確な処理と厳正な管理体制の強化及び個人情報管理の徹底	㉔ □自分は、業務改善や長時間労働にならないことを意識した働き方ができている。	A	【考察】 おおむねワークライフバランスを意識して勤務することができており、2学期から行っている水曜日を5時間授業で部活動指導なしの日に設定した成果もあり、各教員の勤務時間も短縮されている。「どちらかと言えば思わない」の回答もあるため、全教員が「働きやすさ」と「働きがい」を実感しながら職務に専念できるよう引き続き業務改善を図っていく必要がある。 【改善方策】 超過勤務時間が長くなる大きな要因は、部活動の指導であるが、本市における部活動の地域移行の動勢を踏まえながら、さらに働き方改革を進めていく。業務におけるICTの活用もなお一層図っていききたい。また、在校等時間の短縮を図ることと併せて、教職員一人ひとりの働きがいが増大するよう留意していきたい。	教職員アンケート	◎	50	40	10	0	90	90	88
学校関係者 評価委員の 所見	普段職員室を訪れたときに、双海中学校の先生方が楽しそうに勤務している姿を見て、とても良い雰囲気だと感じている。業務改善と勤務時間の削減が同時に進められていることも羨ましく思っている。生徒が学校外で活躍する姿やそれに対する地域の方の評価がきちんと学校に届けられれば良いと思う。				学校の対応	地域・保護者と協働する場面をさらに充実させ、質の高い教育活動を効率的に展開し、そのことが本校教職員の「働きがい」となるよう、「地域とともにある学校」としての学校運営を展開する。学校内のみならず、生徒が地域で活躍する姿を捉え、その学びを生かして教育効果を上げていくことでも、教職員の愛顔を増やしていく。							